

令和6年度 神奈川県野生鳥獣による農作物被害の概況

神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課

1 はじめに

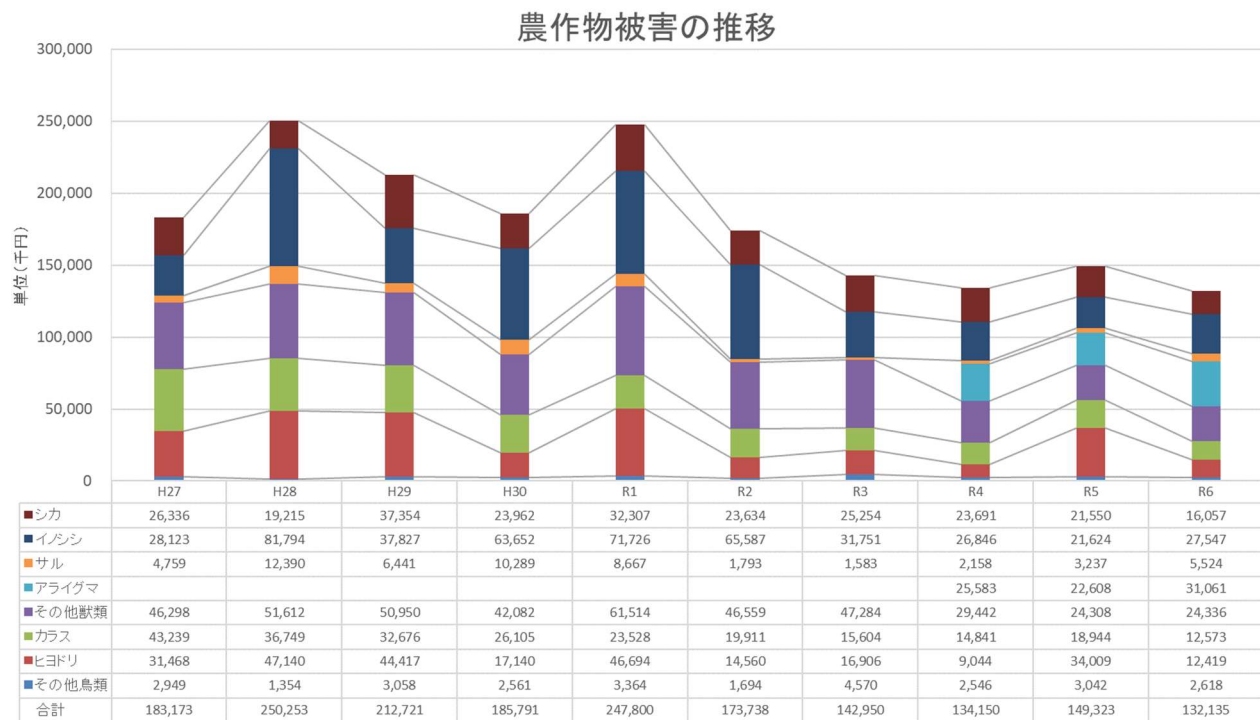
日頃より「野生鳥獣による農林水産物被害等調査」にご協力いただきありがとうございます。農家の皆さま、市町村、農業協同組合等のご協力のもと実施した調査結果をご報告いたします。調査結果は、各地の鳥獣被害対策の効果把握、対策検討の基礎資料として活用させていただきます。

2 令和6年度の農作物被害の傾向

令和6年度の野生鳥獣による農作物被害額は、1億3,214万円で、前年度に比べ1,719万円の減少となっています。被害額が多い鳥獣は、アライグマ 3,106万円、イノシシ 2,755万円、シカ 1,606万円となっており、この3種で全体の57%を占めています。

【参考】神奈川県ホームページ《神奈川の野生鳥獣と狩猟のページ》

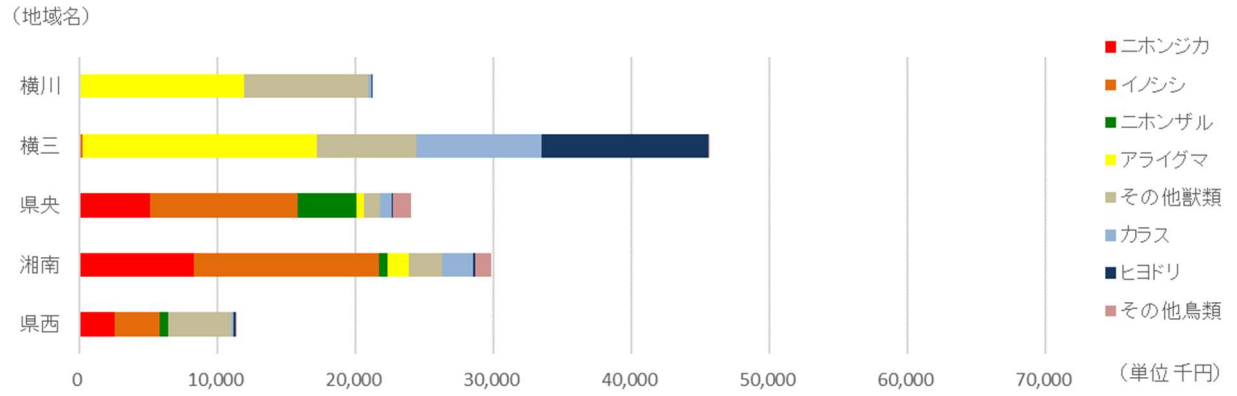
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f986/>



※被害額は、千円止めで四捨五入していることにより、合計値は一致しない場合があります。

※アライグマは令和3年度分までは「その他獣類」に含めて算出しています。

地域別・獣種別の農作物被害額



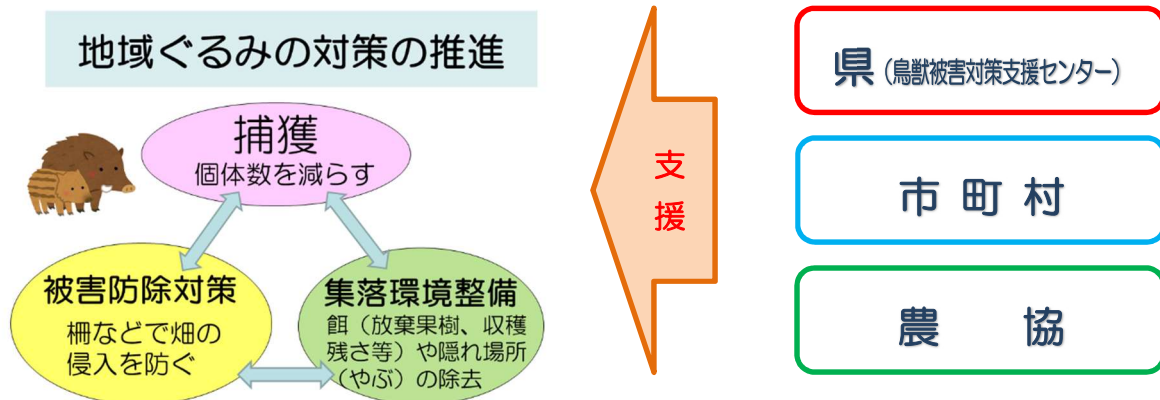
※被害額は、千円止めで四捨五入していることにより合計値は一致しない場合があります。

3 鳥獣被害対策のポイント

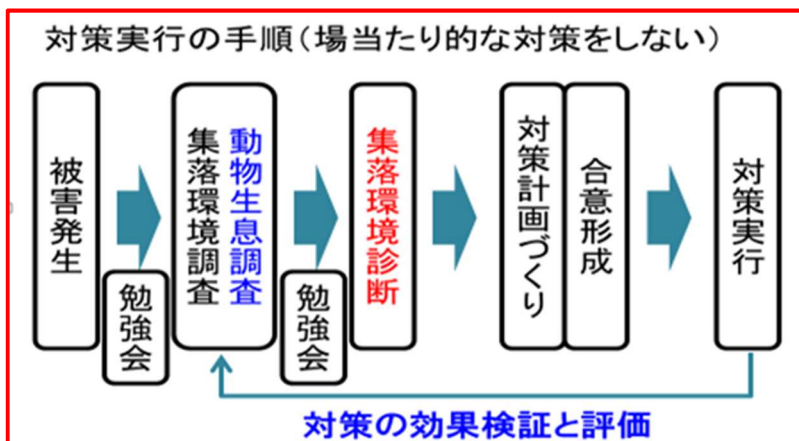
○対策のポイント

鳥獣被害対策は、集落環境整備、被害防除対策、鳥獣の捕獲の3つの基本対策を地域が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」が効果的であることが明らかになっています。

県でもこの「地域ぐるみの対策」を広げていくため、市町村、農協、地域の方々と連携しながら効果的な対策の提案、技術支援、効果検証の支援を行っています。



○ある地区での「地域ぐるみの対策」の取組み事例



田畑の周辺にひそみ場が・・・



刈払い、間伐で見通し良く！

<地域の課題>

- ・山際の田畑でのイノシシの被害が顕著である。
- ・田畑の周辺に野生鳥獣のひそみ場になるヤブ、竹林がある。
- ・田畑へ野生鳥獣を寄せ付けてしまう放棄果樹（エサ）がある。
- ・電気柵から農作物がはみ出ている。

<取組内容>

- ・ヤブの刈払い、竹林の間伐により田畑周辺の見通しを良くし、ひそみ場をなくした。
- ・果樹を管理しやすい高さに剪定し、放棄果樹をなくした。
- ・電気柵の外に果実が出ないように、果樹の剪定、電気柵の設置を行った。

<成果・今後の課題>

- ・ヤブの刈払い、電気柵の設置を行った田畑では被害がなかった。
- ・対策を知らない方が多い。個人の取組みだけでなく、地域ぐるみでの取組みに繋げていく。